広報かじき

No.262
昭和52年
3

発行／加治木町
編集／総務課

印刷　吉屋印刷有限会社

初午祭の先頭に立つ馬踊りの練習　ハイ!!ハイ!!（木田郷）

■メモ　人口／20,943　男／9,940　女／11,003　世帯／6,735　（52年2月1日現在）

地籍調査無事完了
今後は新地籍図で

町の面積46.51平方キロメートル

完了式で感謝状を受ける代表の岩沢さん

者二百余人が集まり地籍調査の完了式を行い、地籍調査に功労のあった一七三人と三つの会社に対し感謝状を贈りました。

今までの地籍は、明治初期につくられた字絵図が使われてきたがこれらは実際の面積や形と合致しないのがほとんどです。その字絵図を正確なものにするため、本町は昭和三十九年から、新しい測量図を作成する地籍調査の事業に着手し、十二年間かかって八百枚におよぶ正確な地籍図を完成したものです。

今後は、この地籍図が字絵図にかわって、土地の面積や形の辞典となり、いろいろな事業に活用されることになります。

次は町長のあいさつと、担当者の経過報告です。

地籍調査完了にあたり

町長　東　国雄

「計量は正しく」と消費者は願っている現在、土地（地籍）においても同じことがいえると思います。

加治木町では、他町にさきがけて二月七日、福祉センターに関係

本町が地籍調査事業に着手したのは、昭和三十九年度でありましたが、当時は県内でもわずかに九か町が実施している程度で、その前途には幾多の困難が予想されたのであります。国・県及び先輩市町村のご指導と住民代表の地籍調査委員の皆様のご協力と併せて調査関係者の絶大なるご協力があり更には測量担当会社のすぐれた技術陣と終始一貫した誠意と熱意により、ここに八百枚におよぶ地籍図が完成し、一応外部作業から認証登記事務まで完了したことはまことによろこびにたえないところであり深甚の謝意を表する次第であります。

今後この地籍図は、町民の土地所有権保護の役目を適確に果すと同時に、町のあらゆる施策面に大きな役割を負わされているのであります。ご承知のとおり、現在本町は鹿児島市のベットタウンとして、また、行政上町および大字・部落をより良いものにし、住民の生活を安定させるために、公共事業その他いろいろな事業が容易に計画されております。

これらの計画を実行に移すためには、その基となる資料を整えなければなりません。地籍調査事業によりこの基礎が明確に把握できたことにより、あらゆる事業施策の基礎資料として土地の行政全般に、また、住民の福利増進のために今後全面的に活用出来るよう努力して行く必要があると思います

最後に本調査に直接従事された委員の方々並びに関係者の御労苦に対し深甚の謝意を表します。

経過報告

本町の地籍調査事業は、国土調査法に基づき昭和三十九年度に着手。昭和五十年度までに市街地の都市計画施行区域を除く地区全部を完了し、現在、四十九年度から五十年度実施した大字反土地区及び町場の都市計画施行区域外の成果（四五〇〇筆）を登記所に送付し登記中であり、三月までに全体の事業成果の登記を完了する見込みであります。

旧来の土地台帳、字絵図は明治初期に租税の目的で作成されたものと解せられてきましたが、面積や字絵図は現地と相当な誤差を生じているところも若干あったのであります。このようなことで現在においては、国全体の高度な発展に伴い土地利用の高度化は不可欠の要件となり、この要請を満たすために科学的実態調査を実施して土地に関する基礎資料としての地籍図・地籍簿を整備して、この制度の確立を図ることが急務であったわけであります。

本町はかような理由のもとに、昭和三十九年度に計画を立て着手したのでありますが、当時の土地の価格等事情は今から考えますと非常に低く、町民関係者の地籍調査に対する関心がうすく一筆調査で難儀苦労したことを覚えます。

当時は日木山地区から小山田地区の山間部で、生い茂った雑木林の境界踏査をするために境界線の代開をしながら調査をすすめたこと、時には方位も解らない大きなホキの中に入りこみ一日に二・三筆しか調査ができなかったこともあったようであります。

昭和四十三年から、国の高度成長に伴い土地の価格事情が上昇し所有者の調査に対する関心が深まり、杭打ちなど熱心に協力されるようになって参ったようであります。そのためにあちこちで境界紛争がおこり、むずかしい局面も相当な数にのぼりました。

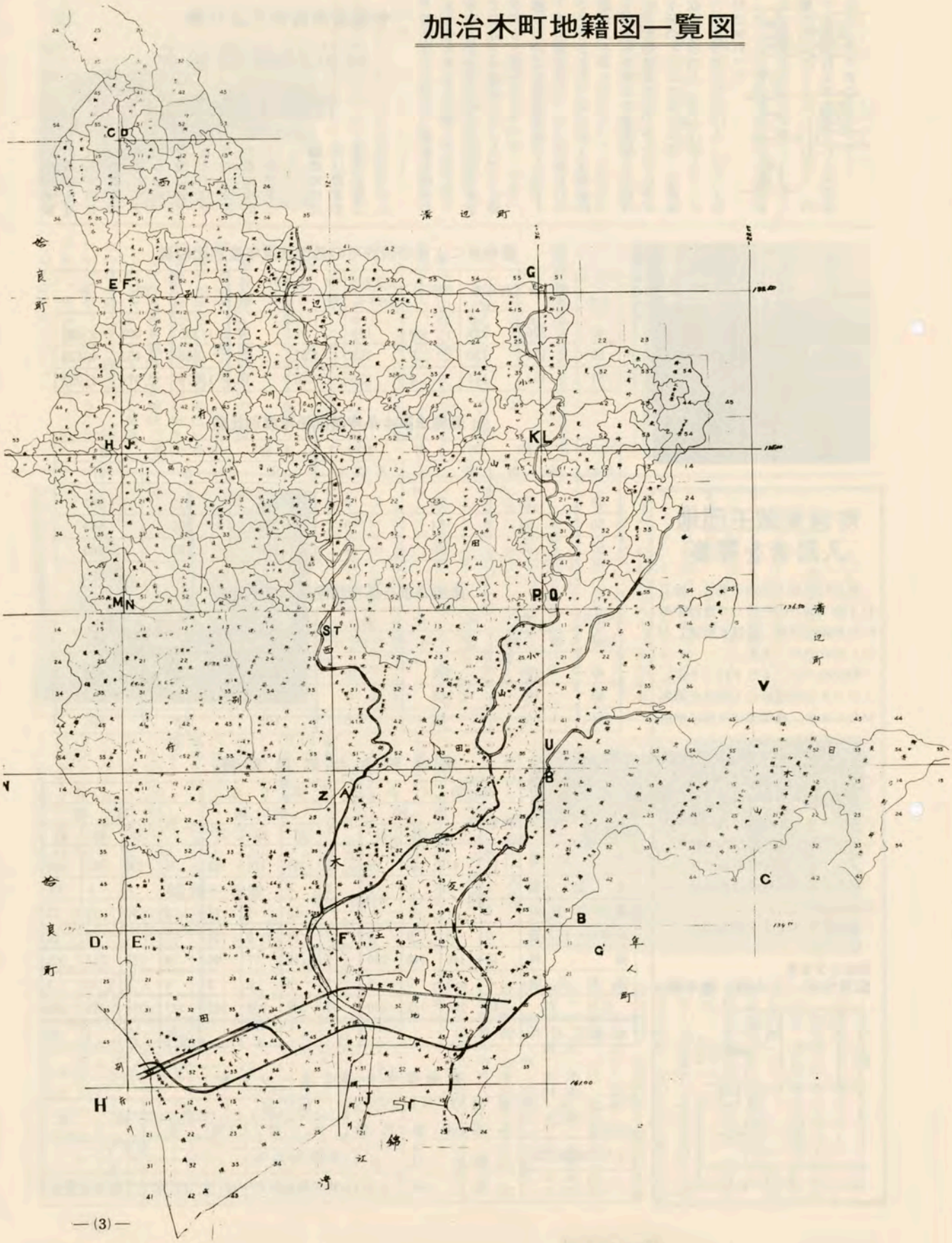
これらの問題を地籍調査員の皆様の積極的なご協力を得ながら、担当者も法に基づき最善の努力を払い解決に努めたことをしみじみと感じているところであります。

本町はすでに地籍の成果が土木事業、開発事業などに基礎資料として活用されており誠に喜ばしいことであります。と同時に町全体の基礎が明確に把握できたことにより、公共事業、開発事業など土地行政全般の合理化、効率化を図ることができると思います。今後はあらゆる基礎資料として活用していただければ幸甚に存じます。

最後に三十九年度着手時から完了時まで十二年間、地籍調査員をはじめ関係者並びに住民みなさまの絶大なる御協力とその御労苦に対し深く感謝申しあげる次第であります。

地籍係長　下楠薗　仁

加治木町地籍図一覧図



◆農業委員会だより◆

自立経営農家を育成しましょう

町でも優良農地を見直し、自立経営農家の育成につとめるため、農家の皆さんも一体となり、今後の農業を向上させましょう。

■農地の売買は農業委員会を通じてやりましょう。

農地等の売買は、農業委員会のあっせん事業を利用していただき、本町の農地は本町の規模拡大農家に是非とも譲渡していただく必要があると思います。

■利用者には優遇措置があります

農用地につき、この事業を利用いたしますと、次のような優遇措置があります。

①譲渡所得税の特別控除…五百万円、②登録免許税…千分の五十が千分の六十に軽減される。③農地取得資金のあっせんは個人で八百万円まで借りられ、あっせん手数料は無料です。

詳しいことは農業委員か農業委員会の事務局へお問合せください。

■昭和51年1月から12月まで、町の農業委員会で処理された申請書関係は次の表のとおりです。

町営東蔵王団地入居者を募集

現在町内蔵王団地の奥に，総工費１億 260万円を投じて建設中の町営東蔵王団地（鉄筋４階建）が近く完成いたします。

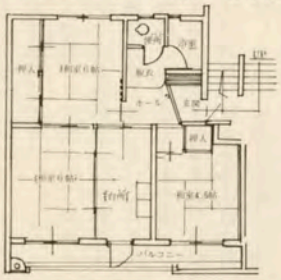
町役場では，４月１日（予定）入居できる同団地の入居者を募集いたします。希望者は早目に申込んでください。

○募集戸数　16戸(第２種３ＤＫ)
○家　　賃　14,000円(予定)
○受付期間　３月22日㈫まで
○申込み先　役場総務課　管財係
○抽　　選　３月26日㈯午前10時から福祉センター

詳しくは役場総務課管財係へお問合せください。

電話②２１１１　内線２８

昭和５２年度
公営住宅（二中耐）略平面



農地法による申請許可の処理状況年度別比較表

区分＼年度	総数	許可数	不許可	農業委員会許可	知事許可	町外取得	田	畑	計
49	件 226	件 226	0	件 131	件 97	件 7	㎡ 1,336	㎡ 4,009	㎡ 5,345
50	150	150	0	113	37	25	968	3,452	4,420
51	144	144	0	134	10	10	1,079	2,974	4,053

農地法第４条申請関係年度別比較

区分＼年度	許可件数			許可面積		
	総数	許可	不許可	田	畑	計
49	件 76	件 76	件 0	㎡ 575	㎡ 412	㎡ 987
50	54	54	0	374	209	583
51	40	40	0	188	172	360

農地法第５条申請関係年度別比較

区分＼年度	許可件数			許可面積		
	総数	許可	不許可	田	畑	計
49	件 101	件 101	件 0	㎡ 428	㎡ 215	㎡ 643
50	103	103	0	297	158	455
51	82	82	0	398	207	605

用途別主な転用実績

区分＼用途別	法第４条				法第５条				合計			
	件数	面積			件数	面積			件数	面積		
		田	畑	計		田	畑	計		田	畑	計
住宅用地	件 14	㎡ 42	㎡ 26	㎡ 68	件 56	㎡ 297	㎡ 125	㎡ 422	件 70	㎡ 339	㎡ 151	㎡ 490
建設業	1	0	6	6	2	8	0	8	3	8	6	14
農林漁業用	0	0	0	0	2	10	1	11	2	10	1	11
商業サービス業	0	0	0	0	7	51	0	51	7	51	0	51
植林	19	140	140	280	7	13	77	90	26	153	217	370
道路用地	6	6	0	6	3	3	0	3	9	9	0	9
合計	40	188	172	360	77	382	203	585	117	570	375	945
知事許可外									公道	23	0	23

農地保有合理化あっせん数

区分＼地区名	実積年度	あっせん筆数	あっせん面積	関係人員 売渡	関係人員 買受	備考
日木山楠原台地	51	筆 12	㎡ 219	県開発公社	1	
〃	51	115	1,871	貸人開発公社	借人 21 名	1時使用貸借

話題あれこれ

建国記念の日
約百人が奉祝

建国記念日の二月十一日、加治木町では「加治木建国記念の日奉祝会」（東　国雄会長）主催の記念式典が、花火を合図に午前九時半から護国神社でありました。

式には各団体をはじめ、役所、会社、一般約百人が列席、神事のあと東会長のあいさつがあり、つづいて護国神社から鹿児島銀行～錦江橋～一〇号線～電報局前～福祉センターに至る約二キロを日の丸行進。

福祉センターで有馬俊郎先生（伊集院町出身）の記念講演を聞き無事式典を終りました。

二メートルの大ヤマイモ
二時間かかって掘る

町内城の城内誠二さん（七二）宅を訪問すると、床の間にビックリするようなジャンボヤマイモが飾ってあった。

このヤマイモは、息子の城内耕さん（三八）が、このほど自宅近くの山で長さ二メートル、直径七センチ、重さ三・五キロの見事なヤマイモを掘りあげた。

耕さんは、鹿児島市内の会社に勤めていて、毎週土曜日は加治木に帰り、年老いた両親の手伝いをするかたわら、付近の山を歩き回ってヤマイモを掘るのが趣味。

このジャンボヤマイモを発見したのは一月三十日の早朝、二時間かかってやっと掘り上げることができた。食べるとすれば、三十人分以上はあるという。

孫に教えたい
昔の農機具等を

辺川下の大宮路篤男さん（六七）は今は珍らしくなった農機具「ミニュチア版」を作って近所の人たちを感心させています。

作品は昔使った農耕用のクラ、スキ、マングワや自在カギ、井戸つるべ、軽石の灯ろう、足踏み米つき器など。これらを作るには、マスコット用に作るため、ひとつ作るのに一日はかかるそうです。

ミニ農機具を作るようになったのは二年前から「孫が生まれたのを機に、昔はこういうのを牛馬に引かせて田んぼを耕し、米を作っていたんだというのを教え、後世に残すために」と思い立ったというわけ。

大宮路さんは、昨年胃の手術をしていて体の調子をこわさないようにぽつぽつこれからも作りたいと話していました。

町内一周駅伝大会
町役場(A)が優勝

恒例の町内一周駅伝大会は、第十回を迎え一月三十日、町内外から十一チームが参加して行われました。

午前十時〇一分能瀬教育長のピストルの合図で、十一人の選手は図書館前を一斉にスタート、小山田～辺川～西別府～木田のコース八区間二〇・四キロで健脚を競い、沿道の声援をうけました。

今回は小雪もぱらつき、寒い日でどの選手も自分の持ちあじを十分生かすことができず昨年を下まわる一時間十六分の記録で役場(A)チームが優勝しました。

成績は次のとおりです。

▽一般の部＝①町役場(A)1時間16分52秒　②姶良西部消防(B)1時間18分57秒　③コカ・コーラ1時間19分24秒以下④姶良西部消防(A)　⑤明治乳業　⑥九州電力　⑦町役場(B)。

▽オープン参加＝①国分消防1時間8分15秒　②加治木工業1時間11分02秒　③竜門中1時間13分45秒　④加治木工業寮

【区間賞】一区　園田英実（役場(A)）▽二区　馬場　勉（姶西消防(B)）▽三区　木村　博（同）▽四区　横山　修（役場(B)）▽五区　岩元啓吾（姶西消防）▽六区　黒仁田道義（明乳）▽七区　瀬戸口悟（役場(B)）▽八区　福元規夫（役場(A)）

成績一覧表

※印は区間賞

チーム名＼区間	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	累計	チーム名	順位
国分消防									時間分秒 1. 8.15	国分消防	オープン
町役場(A)	※								1.11.02	加治木工業	〃
竜門中									1.13.45	竜門中	〃
加治木工業				※				※	1.16.52	町役場(A)	1
コカ・コーラ			※		※				1.18.57	西部消防(B)	2
西部消防(A)		※							1.19.24	コカ・コーラ	3
西部消防(B)									1.21.31	西部消防(A)	4
明治乳業						※			1.21.47	明治乳業	5
町役場(B)									1.21.51	加工寮	オープン
加工寮									1.24.30	九州電力	6
九州電力							※		1.25.09	町役場(B)	7

町連合婦人会

ボランティア活動について

（婦人会だより）

○現在は第三の社会参加の時代といわれ、今迄、家庭家族のためにつくしていた力を社会のために役立てる、即ボランティア活動をする時です。

○ボランティアとは…神にえらばれた人、労力の奉仕、弱者を助けるという意味をもち、心構えとして自分のためにやる。

○自発性、公共性、無報酬を原則とします。

○活動を通して人間性をたかめ、婦人の生活をかえる。

○進んでやる一人は、強いられてやる二人に勝る。

○ボランティア活動をするには、心のゆとり、奉仕の意識、行動力をもつこと。

○自分の持っているものを、必要とする方に利用していただいたりかせいしたりして、皆が幸な生活を営めるようにし、地域づくりをしていく事が、婦人会のボランティア活動ではないでしょうか。

現在おこなっているものをあげますと次のようなものがあります

一、結婚相談室の開室（先輩の方）

一、福祉センターでの結婚式

一、南九州病院の筋ジス、重心病棟での奉仕

一、明るい選挙推進の広報活動

一、結核予防のシール募金と台帳整理

一、敬老会

一、おむつ一枚運動

一、施設訪問

一、日赤募金、赤十字奉仕

一、青少年の育成

一、婦人会バレー

一、交通安全運動など

○ボランティアの理解と活動が、一人ひとりの生きがいになったらと思って活動しています。

冷凍食品料理実習会

二月十二日午前、午後福祉センターで行いました。

これからは冷凍食品の時代で、季節にかかわらず、いつでもどこでも新鮮さをそのまま再生でき価格の変動も少なく、お料理のメニューができます。

○船の上で急速冷凍され、産地の新鮮さをそのまま家庭へ

○捨てる部分がなくて経済的

○冷凍食品はマイナス四十度から四十五度の超低温で冷凍されていますから細菌の心配はない

冷凍食品の上手な買い方

一、ガッチリと凍っているもの

二、包装のきれいなものを選ぶ

三、霜の少ないものを選ぶ

四、認定証マークを確かめる

五、お買物の一番最後に買うこと

もどす方法

○調理する数時間前に包装のまま冷蔵庫の下の段に移し、ゆっくり自然にもどす。

○急ぐ時は包装のままビニール袋に入れ、水が入らないように固くしばり水道の流水に二十分から三十分間つけてもどす。

○直接水につけない。また、熱湯などをかけないこと。

保存

○一週間以内に使う時は、冷蔵庫の製氷室に保存する。

○ホームフリーザーに保存の場合も一か月以内に使う。

○冷凍食品がとけかかっている時は「ナマ物」と同じという気持ですぐ使う。

○一度もどしたものは全部使う。

冷凍食品を使った料理（調理実習）

■フイッシュ丼

材料…ホワイトフイッシュ、玉ねぎ、椎茸、人参、卵、のり、出汁、醤油、みりん、砂糖

■ミートボールと胡瓜の甘酢あん

材料…ミートボール、胡瓜、唐辛子、生姜、砂糖、酢、醤油、出汁、胡麻油

■カニシューマイの味噌たれ

材料…カニシューマイ、赤味噌豆腐、ニンニク、生姜、砂糖、醤油、出汁、青葱

竜門句会

風邪癒えて日差しめでたく蒲団干す　井之上透山

赤松に冬の日輪亘りけり　鶴田　耕

枯蓮の折れ伏す堀や城の跡　中山　待香

森閑の山路に落ちぬ寒椿　宮脇　思川

目白来て覗かれゐたり日向ぼこ　田代　俊泉

干蒲団夜ははのぽのと陽の匂い　恒吉　斗南

春浅き山辺の宿や花菜漬　曽木　柳田

濯ぎ物尚物干しに日脚伸び　伊丹　司朧

背戸の樋のとくとく溢れ冬ごもり　奥原　敬二

旅しぐれ見しらぬ医師に脈まかす　松永　愛子

文化財めぐり ⑧ 実窓寺磧（かわら）

木田楠園部落の、入口の田んぼの中にあり、ここは昔、網掛川の本流が流れ小鳥神社の西をまわり、網掛川のところから海に注いでいた。西側の楠園に実窓寺という寺があったので、ここを実窓寺磧といった。

元和五年七月二十一日、今から三百五十八年前、義弘公が屋形において死去され、八月十六日遺骸を鹿児島の福昌寺へ送られる日、出発の時刻を期して、ここ実窓寺磧においてかねて約束の同志七人が割腹自刃したところである。

実窓寺磧には記念の松があったが、百五十余年も経過して枯死したため、安永五年石碑を建てさらに百四十余年を経て石碑も破損し川原は田んぼと変り、敷地も次第に狭くなったので明治四十四年修理をし、後藤塚とともに新しく石碑を建て田地をつけて維持してきた。

新入学児をもつ親の心得として

まもなく新入学のシーズンがやってきます。

入学をひかえた子どもたちは、「早く学校に行きたい」とか「学校はどんなところだろう」といった、期待と不安が入りまじり、また、親の方も何かと心づかいが多くなります。

そこで、入学前の子どもに対するしつけや、親の心得などについて述べてみましょう。

学校に対する不安をなくす

子どもの学校に対する不安感をとりのぞき、入学を楽しみに待つようにさせることが大切です。「先生に叱られる」とか「いじめっ子がいる」というような、子どもに不安感を与えるような言葉は不用意に口に出さないこと。

基本的な生活習慣

基本的な生活習慣として、次のようなことを身につけさせておきましょう。

■ひとりで起きられる

■手洗い、歯みがき、洗顔、うがいができる。

■洋服がひとりで着がえられる。

■ぬいだ服は、たたむ習慣をつける。

■自分の持ち物は、自分で整理整とんできる。

■用便がひとりでできる

通学にそなえて

学校までは、一人で行けるようにさせておきましょう。また、通学路は前もって子どもといっしょに通行し、次のようなことを教えておきましょう。

▼歩道があるところでは、必ず歩道を通る。

▼歩道がないところでは、右側を通る。

▼道路を横断するときは、できるだけ横断歩道（橋）や信号機のあるところをわたる。

▼急に道路に飛び出さない。

▼車のすぐ前や後ろを横ぎらない

▼ふざけながら道路を歩かない。

その他、見知らぬ人から声をかけられたときの心得も教えておきましょう。

これらの安全の意味でも、近所の上級生の顔をよく覚え、親しくしてもらっておくことが大切です

学習

学習については、入学前に特別にいろいろなことを教える必要はありません。ただ、次のことができる程度にさせておきましょう。

①…名前を呼ばれたら、大きな声で「ハイ」と返事ができる。

②…自分の名前の読み書きができる。

③…両親の名前、住所が、はっきり言える。

④…あいさつができる。

⑤…右、左の区別ができる。

⑥…人の話を短時間おちついて聞ける。

学用品

ランドセル、鉛筆入れなどの学用品はデザインの美しさだけでなく、なるべく実用的で使いやすいものを選び、そして必ず名前を書いておきましょう。

筆 随

西南戦争こぼれ話

松永愛子

（図書館提供）

明治十年二月十二日薩摩路は大雪であった。母上と十七歳の伯父は玄関に駆けこんできて、西郷さんのあとに続くといって聞かない伯父は当時島津家の小姓であった未亡人の祖母は一人息子の出征を

悲しみ、跡目のないことをくどいた。

「お別れです。跡目は姉たちに頼みます。これからは女も学問をする時です。師範学校に入れて下さい。」伯父はびん髪の包みを渡すと、熊本へ向う味方に追いつくために雪の道を韋駄天のように駆けだした。病弱の祖母は赤い毛布をすっぽりかぶって門に立ち、降りしきる牡丹雪の中に姿を消した我が子をいつまでも見送っていた

九月二十四日、西郷さんの率いた賊軍は城山に壊滅した。遺族の人々は日がたつと肉身の遺体をそっと探して持ち帰ったものもあった。祖母は一握りのびん髪ではどうしても一人息子をあきらめることができなかった。戦死者の遺体の骨に火をつけて赤く燃えたら肉身であるという、うわさが広まると三人の娘を城山に登らせる決心をした。

末っ子の私の母が十一歳、二つちがいの三人の娘は、まだ幼なかったが兄上を探しにと張り切って一番上の栄子が燧石を入れる袋を縫った。栄子は紫色、春子は黄色末のすみ子は赤色で縫いあげて名前を書いた。下男がわらを打って柔かく作った草履にも袋と同じ色のひもを春子がくくりつけた。

その朝、祖母は起きて三人の娘に「おばこ」という髪を結うてくれた。そして藍色手織木綿にめいめいの名前を織りこんだ袷を着せて「いつつづめ」という緞子に似た赤無地のせまい帯を矢立にむすんだ。まだ官軍が出没するという流言があったので女心の危懼も手伝って、娘達に万一のことがあっても解るようにと祖母は服装に気を配ったらしい。

秋深い城山の草は踏みしだかれていた。新らしい土跡を下男が発くと三人の娘は寄り添って燧石をすったが、赤い炎の出る亡骸の骨はついに一つもなかった。その後は亡骸の顔がちらついて夜は便所に立つのも三人一緒であった「小とぼし」の薄い灯りで壁に大きな影が写ってさえ怯えた。

或る夜、先に用を足した母が縁に待っていると急にあたりが真昼のように明るくなった。見ると城山の麓に火柱が立っている。その大きかったこと、赤かったこと声も出ないで火柱の消えるまでの瞬時、固唾をのんだ恐怖は一生のうち只一度のものであったと母は話していた。火柱は城山で散った兵士達の魂火であると祖母も母も人々も信じ切っていた。

私はこの頃、火球という流星の大きいものが落ちた瞬間に火柱ができる話しを読んで、母の見た火柱の正体を知った気がしたが、肉身が火をつけたら赤い炎のでるという遺体の骨の話しはまだ半信半疑のままである。

確定申告に誤りがあったとき

税務署に所得税の確定申告書を出した後で、申告内容に間違いがあることに気付いたときは、正しい申告にやりなおすことができます。

詳しいことは加治木税務署へお問合わせください。

〃〃〃〃〃〃 香典返しを寄付

香典お返しのかわりにご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげます。とともに故人のごめい福をお祈りいたします。

＝町社会福祉協議会へ＝

二万円　西ノ原　吉村　圭治（妻フジ子）
五十万円　城　岩沢　モヨ（夫藤夫）
三万円　川原　永井　利子（夫正雄）
五万円　内原田　市薗　忠（仲次郎）
一万円　黒川住宅　日高　築子（夫達雄）
一万円　吉原　緒方　チカ（夫　若）
二万円　於里　緒方　三男（母ヤエ）
一万円　上浜　山本　雄一（母ハギ子）
五千円　中汐入　片平　三郎（母夕子）
一万円　岩原西　柳田　正敏（母　幸）
一万円　西浦西　屋所　鉄二（父金蔵）
二万円　辺川下　小宮路鷹行（次男菊男）
二万円　萩原　西村　国雄（弟未有秀）
二万円　本町　酒匂　トメ（夫清次）
一万円　市来原　市来原　静（母ケサミツ）
二万円　岩原西　高山　隆一（母セイ）
三万円　西反土前　吉薗　清（父正市）
一万円　新富町　藤井　節夫（母ハツノ）
一万円　菖蒲谷下　外村　春夫（母モト）

＝町育英奨学資金へ＝

五万円　内原田　市薗　忠（父仲次郎）
十万円　城　岩沢　モヨ（夫藤夫）
一万円　於里　緒方　三男（母ヤエ）
一万円　市来原　市来原　静（母ケサミツ）
二万円　西反土前　吉薗　清（父正市）

＝町国民年金協議会へ＝

一万円　内原田　市薗　忠（父仲次郎）
一万円　下新道　安楽　光行（父藤一郎）
一万円　西反土前　吉薗　清（父正市）

〃〃〃〃〃〃 一般篤志寄付

五十万円　創立三十周年記念として　垂之口　松田建設株式会社

▽…二月二十日までのご寄付を掲載いたしました。

三月の在宅医

6日　大川医院　②二〇三二
13日　川畑医院　③一四九九
20日　神田橋医院　②二〇二四
21日　上妻医院　②二四二一
27日　平山医院　②二四六八

■…診療時間は午前九時から午後五時までが原則です。

■…当日の往診ならびに緊急以外の受診はご遠慮ください

回顧録 ―⑮―

ヨーロッパ時代

曽木　隆輝

昭和二十年の一月も館員みな寝たか起きたか知れぬような毎日だった。ドイツ軍は到る所で敗れて行った。

大使は時局はいよいよ切迫してくる、よって館員はこの際せめて数日間ずつ休んで英気を養ってくれと命令し、私たちは十人ぐらいずつ二班に分れて、南ドイツの山岳地にスキーに行くことにした。

私自身スキーは全然無経験だったが、急に靴などを買って出かけた。二、三日でどうにか滑れるようになった。アルプスの山近い一帯は、空襲もなく、夜はグッスリ休まれた。小さなホテルだったが食事もよかった。

二月ごろになるといよいよドイツ軍敗地の色が濃くなった。大使館にヨーロッパのあちこちから追い出されてくる館員も増えてきたそれがための仕事も増えてきた。

館員で家族同帯のものは、南ドイツの小さな温泉町のホテルに避難してもらうことになった。たしか現在の藤山外務次官もその中に入っていたと思う。このホテルから一二か月たって、不安だからと連絡があり、私が行って話をきくと、米はおかゆでも食うと一年ぐらいはもちそうだが、肉がほしいという。私はスキーを着けて市役所に行って、市長に会って助けを求めた。市長は市民に配給すべき肉を日本人にやりましょう。その不足分は猟人に鹿をとらせて補いますと協力を約してくれ、また、石炭も補給してくれて一安心だった。

一方他の館員で住む所のない者はボイツエンブルグというベルリンから約四、五十キロ離れた町の山手にある別荘を借りて住んでもらった。他の居留民もそれぞれ郊外へ家をかりて住まわせた。そこから私の机の上に直通電話も引いてもらい、連絡するようにした。

二月末になると温泉地に避難している館員の婦女子の所からこんな淋しい所に居たくないからベルリンへ帰してくれとしきりに連絡がきた。協議の末、かえすこととし、バス一台と私の車で迎えに行った。食糧は大丈夫だが、女子供は皆のいる所へというので連れて帰ってほしいという。よって三十人位いをバスで、けがをした婦人を私の車で帰路についた。猛烈な吹雪で私の車はタイヤ二個パンクし、もう予備もないので道ばたにそれを棄て、私も病人もバスに乗って一日がかりで暗黒のベルリンへ帰りついて、ホテルその他へ無理に入ってもらった。